

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-249576

(43) 公開日 平成9年(1997)9月22日

| (51) IntCl ⁵ | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I | 技術表示箇所 |
|-------------------------|------|--------|---------------|--------|
| A 6 1 K 35/78 | ADS | | A 6 1 K 35/78 | ADSW |
| | ADA | | | ADA |
| 7/00 | | | 7/00 | K |
| | | | | W |
| 7/06 | | | 7/06 | |

審査請求 未請求 請求項の数 1 F D (全 2 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平8-84706

(22) 出願日 平成8年(1996)3月12日

(71) 出願人 594151852

田中 正弘

山口県徳山市遠石2丁目12番50号

(72) 発明者 田中 正弘

山口県徳山市遠石2丁目12番50号

(54) 【発明の名称】 細胞活性培養促進液

(57) 【要約】

【課題】 頭皮や手、足、顔等の肌の細胞の活性化を図り、故に増毛、育毛効果を生じ、又、手、足、顔等の黒ズミ、シミ等を除去し、肌荒れを防ぐ事のできる細胞活性培養促進液を提供する。

【解決手段】 漢方の生薬である朝鮮人参、鹿茸、1字、梅片、蜜、桂皮、紅花、アロエ、地黄、玉竹、杜仲等をホワイトリカーに浸出し、濾過した液にサリチル酸、沃度等の薬液を混合し、攪拌した細胞活性培養促進液。

BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 漢方の生薬である朝鮮人参、鹿茸、丁字、枸杞子、蚕、桂皮、紅花、アロエ、地黄、玉竹、杜仲等をホワイトリカーに浸出し、浸出液を濾過し、この濾過液にサリチル酸、沃度等の薬液を混合し、攪拌して溶液をつくる、細胞培養促進液の製造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明の培養液を頭皮の皮質に塗り込む事により、頭皮の細胞の活性化を促し、頭髮を再生、増毛し、又、手や足、顔等に塗り込む事により、肌の活性化を促進するため、黒ズミ、シミ等を除去し同じく細胞の活性化を促進する。

【0002】

【従来技術】従来、増毛のための頭髮用溶液、又は、シミ取り溶液等、数多く生産されているが、何れも顕著な効用を認める細胞活性培養促進液は特別なものは無かった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この発明の溶液を頭皮に塗り込む事で、頭皮の細胞の活性作用により、増毛を図ることができ、又、手や足、顔に塗り込む事により、肌の細胞活性作用により肌荒れを防ぎ、黒ズミ、シミ等を除去する事ができる等、肌を若返させる事のできる細胞活性培養促進液を提供する事を目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】頭や手、足、顔の皮膚の細胞活性力を生み、故に、増毛、育毛し、又、肌荒れやシミ等を除去する要素を含む漢方の生薬である、朝鮮人参、鹿茸、丁字、枸杞子、蚕、桂皮、紅花、アロエ、地黄、玉竹、杜仲等をホワイトリカーに浸出し、浸出液を濾過し、この濾過液にサリチル酸、沃度等の薬液を混合し、攪拌して溶液をつくり、頭皮に塗り込み、又、手や足、顔等に塗り込む事により細胞の活性化を図る。

【0005】

【発明の実施の形態】本液体を頭皮に塗り込む事により、頭皮の細胞を活性化し、増毛を図り、手、足、顔等に塗り込む事により、肌の若返りを図り、細胞の活性作用による、黒ズミ、シミ等を除去し、肌荒れを防ぐ事ができる。

【0006】

【実施例】細胞活性化の要素を含む漢方の生薬である、動物や植物の漢方剤をホワイトリカーに浸出し、この浸出液を濾過したものにサリチル酸、沃度の薬液を混合攪拌して培養液をつくる。

【0007】

【発明の効果】本発明の細胞活性培養促進液を頭皮に塗り込む事を反復実施する事により、頭皮の細胞に活性化を生じ、増毛、育毛の成果を上げる事ができ、又、手や足、顔等に同じように反復実施する事で、肌の活性化、若返りを図り、黒ズミ、シミ等を除去する事ができる。

フロントページの続き

(51)Int. Cl.⁶

A61K 7/48

識別記号

庁内整理番号

FI

A61K 7/48

技術表示

BEST AVAILABLE COPY